



発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県牧之原市
 坂部2151番地2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。

人を活かす働き

(一)

「当法人の最初の活動が始まってから今年は五十五年目」ということはすでに書きましたが、その最初の児童施設「やまばと学園」で働いた旧職員の皆様が、本年五月中旬に「垂穂寮」を訪れ、かつての園児たちと再会しました。お互いにどんなにか嬉しかったことでしょう！その日の様子等については長谷川信一様に書いて頂きましたので、三ページをご覧ください。私は残念ながら用事があつてその場に参加できませんでしたが、長谷川さんの原稿を読んで、「子どもたちは私の先生だった」という言葉に改めて心打られました。当法人は施設開設に当って「わ



たしたちの願い」(五つの願い)を掲げましたが、子どもたちから学ぶ姿勢は、二番目の願い、「子どもたちをしっかりと見つけ、その可能性をどこまでも追い求めていきたい」を想起させます。

「やまばと学園」が開設された頃の日本は、偏見差別が甚だしく、専門的知識も乏しい時代でした。そんな時代に、最重度の知的障がい児たちを迎えて、職員たちは、散歩したり、食事介助したり、身

辺自立訓練に取組んだりしながら、いつも子供たちに目を注ぎ、彼らが発する無言のメッセージを頼りに、次にどう対応すべきか探つていったと言えるでしょう。

(二)

私が「やまばと」に関わるようになったのは長谷川さんたちよりも後ですが、(たぶん、ボランティア活動をしていた頃)、学園の園児と職員とがオペレッタ「森の春」を演じるのを見て非常に感動したのを覚えています。きれいな舞台装置をバックに、音楽とセリフにあわせて踊ったり動いたりする園児たちは、とても最重度の知的障

碍児には見えなかったのです。

かなりの年月を経て、私は、このオペレッタの振り付けを担当した次田俊子さんと親しくなりましたが、彼女は「あのオペレッタは、舞台装置も手作りです。職員全員が力を合わせて創ったもの。でも、長谷川さんと鈴木勝利さん、そして、私の三人がいなければ、生まれなかったと思う」と嬉しそうに誇らしげに語っていました。

主力だった三人のうち、長谷川さんは特別支援学校の教師になり校長に、鈴木勝利さんは音楽療法を学びにドイツへ、次田さんは病院のソーシャルワーカーになるなど、いろいろな道を歩むことになりましたが、「やまばと学園での体験が、その後の歩みの原点になった」という言葉を聞くと嬉しくなります。そして、後を継ぐ私たちも、ご利用者をしっかりと見つけ、彼らから教えられながら、新たな発見と実践をしていきたいと願うことです。現代は専門的知識やスキルが豊かになりましたが、それらを参考にしながらも、基本的には「子どもたちが先生」と言える歩みを続けたく思うことです。

(三)

ところで、今年は戦後八〇年という節目の年でもあります。

「寒かろう 恐ろしかろう

泣きたからう 国境めざす

少年ひとり」

これは、二〇二二年二月、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった頃、詠まれた歌です。実は正確

な出典を知らないのですが、印象に残ったのでメモしておいたのでした。あれから三年余、ひとりで国境をめざした少年は、安心できる大人や居場所を見つけることができたでしょうか。……

その後の世界はと言うと、ロシアの攻撃はやむことなく続いていますし、イスラエルとハマスの紛争も勃発など、世界は平和に向かうどころか、一段と混乱・悪化しつつあるようにさえ思われます。

私たち日本人は戦後八十年間も平和の恩恵にあずかってきました。が、世界では、ミャンマーの内戦、シリアの内戦、トルコとクルド人の紛争、イエメンの内戦等々、各地で武力闘争が続いており、おびただしい数の難民が発生し、人々は苦しんでいます。たとえ小さなことであっても、困難な状況にある人々のために自分たちができる援助をし、平和のために祈り、できることをしたく思うことです。

(三)

この七月初め、私は日本基督教社会事業同盟の総会・研修会に参

加し、広島で生後まもなく被爆した近藤絃子さんの話を聴きました。

とても力強いお話で、才気煥発な少女だったことがすぐ推測できました。父上は、(私は知らなかったのですが著名な)谷本清牧師で、戦後、ノーモアヒロシマズ運動等、平和活動を推進された方とのこと。絃子さんの講演内容を正確には覚えていませんが、おおよその内容をお伝えしたく思います。

聡明で感受性の鋭い絃子さんは、幼い頃から、被爆女性たちの異常な容貌や、被爆により苦しむ人々の様子を目にして、義憤に燃え、「いつか、原爆を落としたい人間を見つけ出し、仇(かたき)をとつてやる」と固く決意していました。ただ、両親からは「敵意を抱いてはいけない」と言われるに違いないので、秘密にしていたのでした。

やがて絃子さんが小学六年生(?)になった頃、谷本家の家族全員が招待を受けてアメリカへ出発。テレビなどメディアの取材陣が取り囲む中、広島へ原爆を落とした飛行機「エノラ・ゲイ」と、

その操縦士ポール・ティベッツ氏を目にする機会が与えられます。

別室で、操縦士がインタビュールされる様子をテレビを通して見ていた絃子さんは、その内容を明確には掴めないものの、彼が、原爆投下後の感想を質問されたことを察知します。憎しみの思い一杯で画面を凝視する絃子さんの目に、ポール氏が涙を流している姿が入ってきました。その時、突然、「この人も、自分と同じ人間なのだ」

「自分は自分のことを正しい人間と思っっているが、そんなことはない。この思いあがりこそ、平和を妨げるものなのでは」という気づきがあり、実に不思議なことに、憎悪の念が消えたのだそうです。その後、エノラ・ゲイの操縦士と並んで立った絃子さんは、自分の方から小さな手を差し出し、ポールさんもしつかりと彼女の手を握り返したのでした。

絃子さんのお話を聴きながら、私はこう思いました。たとえ平和のために大きな活動ができなくても、自分にできること(もしかして、誰にでもできること)がある、それは、自分を正しいと思いきま

ず、むしろ、自分の弱さを認め、イエスさまから大きな愛を頂いて、日々の暮らしの中で、他者を赦し、隣人を受入れていくことだと。

勿論、平和運動も大切だし、複雑な世界の中で平和構築のための策を練り各国が連携し具体化していくことも必要でしょう。しかしそういう役割に直接関わることができなくても、一人一人が、「神さま、今日も、私を『平和の器』にしてください」と祈り、日々の歩みの中で、憎しみや孤立よりも、赦しや思いやり、助け合い、希望を、少しでも人々の間に広げていくことができれば、それは素晴らしいことだと思えます。

〈理事長〉長沢道子



垂穂寮訪問から

長谷川 信一

二〇二五年五月一七日に旧やまばと学園職員十名で垂穂寮を訪問しました。垂穂寮の利用者の多くは旧やまばと学園の出身者です。

訪問したメンバーは旧園長宮崎道子さんを始め一九七六年度に学園に在職していた方たち。旧交を温め子ども達の懐かしい話に盛り上がりました。宮崎さんは九二歳ですが、お元気で私たちの話のまとめ役をしてくださいました。

私は児童施設のやまばと学園に一九七三年度から七六年度の四年間職員として勤めました。その後特別支援学校(教諭、校長)に勤め、退職後は通所施設(支援員)に関わり、障がいをもっていらっしゃる方達とは五〇年以上関わっています。



私にとってその原点がやまばと学園の子ども達です。子ども達から多くのことを学びました。子ども達が先生です。私が学園で最初に出席したのは五〇歳前

会ったのは垂穂寮のショートステイを利用しているR子さんです。

Rさんは人前が苦手です。緊張して目が合うのを待ちました。緊張を和らぐのを待つてからの働きかけです。やがて食事の配膳を一緒にするようになり、自分をコントロールする力をつけていき、園の発表会の練習に参加できるようになりました。

四季の踊りは詞も曲も職員が作ったものです。子ども達と練習を重ね八名の子ども達だけで舞台発表しました。その中心はR子さんでした。

この他、子ども達と職員とでオペレッタ「森の春」や「白雪姫」も地区の芸能祭で発表しました。宿泊学習等いろいろな行事や日々の活動を通して楽しいことや頑張ることを通して子ども達は大きく成長していききました。

あれから五〇年、当時一〇歳前後の子ども達が還暦を迎えています。私の担当したKさんはトラップリンが大好きでいつも笑顔で笑ってました。一方、多動で自傷や他害が



た。最初は手をしっかり繋いでいないとすぐ離れてしまいました。少し手を離してもそばにいるようになり二人の関係ができてきたことを知りました。

私は学園で「待つこと」「手をつなぐこと」「手を離すこと」そして「押したり引いたりしながら関わり関係を作ること」を学びました。

垂穂寮で還暦を迎えたKさんに会いました。ラップを加えた懐かしい面影があります。落ち着いた姿にうれしくなりました。

いつも笑顔で声を出して見学者を迎えるYさんやTさん、Hさんは当時の面影がありました。Mさんは車いすになっていました。

五十年を経ても当時の子ども達を変わず大事にしてくださいたいことに嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

垂穂寮では見学だけでなくやまばと時代の栄養士さんによる寮生と同じ食事を頂き、そして職員の皆様との懇談会をもちました。懇

あり一対一の対応が常時必要でした。私はうさぎのエサ「つた草」とりによく彼女を連れて学園の外にいきました。

談会では昔の利用者さんの様子を熱心に聞かれ垂穂寮の皆さんの熱意を感じました。今回の訪問では私たちが元気をもらおうと同時に皆さんとの繋がりを感ずる一日になりました。暖かく迎えて頂きありがとうございます。



四季の踊り

詩 長谷川信一
曲 鈴木 勝利

1 2 3 4	1 2 3 4
春夏秋冬	春夏秋冬
季節がめぐり	季節がめぐる
楽しいことも	苦しいことも
みんなみんな	大切に
ちからいっぱい生きるのだ	ちからいっぱい生きるのだ
1 2 3 4	1 2 3 4
春夏秋冬	春夏秋冬
僕らが作る	みんなで作る
きつときつと	きつときつと
新しいものが	生まれてくる
生まれてくるよ	

新人研修を実施しました

やまばと希望寮 杉山 塁

やまばと学園では、5月下旬に新人職員を対象とした研修を実施しました。今回の研修では、業務の基本的な知識や対応方法に加え、利用者様との信頼関係の築き方や日々の関わりの中で大切にすべき姿勢について学ぶことが目的でした。座学だけでなく、私たち2年位先輩の、「ちょっとだけ先輩」職員による現場での実体験の共有も行いました。



研修の中で、私が新人時代に経験したエピソードを紹介しました。ご利用者Aさんは私が担当の時だけ着替えを嫌がり、こちらの言うことをきいてくれないので、とても悩みました。そこで少しでもAさんと仲良くなろうと決め、毎日

出勤すると、(ラジカセでカセットテープの音楽を聞いている)Aさんに目線を合わせて「おはようございます」と挨拶することになりました。「単純接触効果」という

心理現象があり、何度も顔を合わせていると相手に、好意や親近感を抱きやすくなるという効果があることをまなんでいたからです。その効果を願いながら毎日Aさんに挨拶をしつづけました。最初は反応がなく、不安もありましたが、1ヶ月が過ぎた頃、突然、Aさんが自ら進んで着替えてくれるようになりしました。今では、顔を合わせるたびにニコニコと笑顔で応えてくれるようになりました。

このような実体験を紹介して、新人職員たちにも、日々の積み重ねこそが信頼を築く第一歩であることを実感してもらいました。今後も職員一人ひとりが地域に根ざし、安心と温かさを届けられる存在となれるよう、研修体制の充実と現場での学びを大切にしたいです。

(生活支援員)

ヨガ教室

やまばと希望寮 大石 朋美



当法人の有志職員によるヨガ教室が毎月一回開催されています。きっかけは、全国健康保険協会の健

康講座「腸活エクササイズ」でした。その講座で講師を務められた先生がヨガインストラクターでもあったことから、長澤理事長との話が弾み、職員の健康づくりのためにと、開催することになりました。毎回10名前後の職員が、一人千円の会費で自由に参加しています。男女比は、1対9くらいです。

教室は、まず目を閉じて鼻からの深呼吸と瞑想から始まります。穏やかな指導のもと、参加者は黙々と様々なポーズに挑戦。ポールを使った筋膜リリースもあり、足裏や肩甲骨周りなどを刺激します。とても痛い！のですが、足の長さが変わった気がするなど、効果を実感する方もいます。参加者からは、仕事のことを忘れ良い気分転換になる、とにかく



楽しくて毎週でもやりた、職場の仲間同士なので安心して参加できるという感想があり、すっかり月一



度は楽しみになっているようです。筆者である私は以前、腰痛で受診の際、医師から「原因は体が硬すぎる。ヨガでもやってみたらどうですか。ついていけなくても、真似するだけでも良いですよ」と言われたことがありました。そのため、当初は期待を胸に参加したのですが、やはり体が思うように動かず、皆さんが気持ちよさそうにポーズをとる中、楽しさには程遠い状態でした。いつしか参加から遠ざかり、日程調整役となっていました。この原稿作成を機に、久しぶりに参加してみました。体の硬さは相変わらずでしたが、今後は自分の体のために続けようと、気持ちを持って新たにすることができました。

(事務員)

介護予防の大切さ

聖ルカホーム 曾根きよ野

牧之原市の委託事業「短時間デイサービス」が二〇二五年三月末で委託終了となり、そこに関わった私は、いろいろなことを思い出しています。「今日も楽しかった。」「元気をもらったよ。」と笑顔で帰られるご利用者。週1回、半日だけ、介護予防に特化した内容(体操、口腔体操、レクリエーションなど)を提供し、季節毎の行事を考え「これだったら〇〇さん喜んでくれるかな?」と顔を思い浮かべ考えたこと。「この企画は△△さんが得意だよな?」と思いつながら計画を立てたことなど。

「コミュニケーションセンター」が「木」は、定期的にご利用者が通って体の維持(向上)に努める場所でした。

委託事業が終了となり、「ぶどうの木」も閉園になりましたが、その中の一部の介護予防事業は聖ルカホームに移ることになりました。現在は、老人福祉センターなどに出向き、介護予防教室を実施。運動やゲーム、モルックなどを楽

しんでいます。

また「介護者交流会」も実施しています。介護者同士が日頃の悩みを話すことで気持ちの軽くなり、仲間づくりをすることを目的としています。高齢者の皆さんがいつまでも住み慣れた場所で生活できるように、今後も介護予防活動に取り組んでいきたいと思っています。

(相談員)



今 思うこと

ケアセンター花もも 栗田正之



やまばと学園に就職し今年勤続30年を迎えました。改めて思うと、この30年様々な事がありました。その中でも自分の心に鮮明に記憶に残り原点と思える事があります。それは1994年7月1日に就職した当時のこと、まだ児童施設だった学園の思い出です。

その頃は学園の閉所3年前で建物の老朽も見られましたが、平屋の木造の建物は家庭的な雰囲気もあり、20代前半のご利用者達が毎日元気に過ごしていました。当時は今より事務的な業務は少なく、職員も利用者の方々との関わりを中心に支援が行っていたと感じます。1日の始まりは小ホールでの

朝の会、もつぱら歌や踊りで体を動かしました。午前中は健脚組から1時間以上をフルに使って山を越えての散歩など、皆さん元気に散歩されていたなと思います。

夏の暑い時期は毎日、学園の中央にあった中庭のプールを活用。ご利用者の皆さんは楽しそうに水遊びをしていました。他に月1回程のペースで、勤務終了後、ご利用者と担当スタッフとで外食に出掛けたり、休日も幾人かの職員はご利用者と外出し、カラオケ等を楽しんだりしました。様々な面で自然体でご利用者と親しく時間をともしたので、ご利用者の気持ちや身体面についても気付くことが多かったと感じます。

時代の流れとともに様々な変化がありますが、学園時代に感じた自然体で関わる事の大切さを忘れず、それぞれのご利用者が必要とする支援をしていきたいと思えます。

(主任生活支援員)

2024(令和6)年度 社会福祉法人牧ノ原やまばと学園決算報告

2024年度も皆様のご支援やお祈りに支えられ活動を終了できましたことを心から感謝申し上げます。

2025年3月末時点で、牧ノ原やまばと学園には、30の事業所(高齢者福祉関係は9、障がい者福祉関係は19、ほか本部及び診療所)があり、職員数は、パート職員を含め、約430人となっております。

さて、2024年度決算は、事業活動計算書によれば、主たる福祉活動の収益は、約21億2,113万円、支出は約21億315万円、サービス活動増減差額は、約1,798万円でした(2023年度は713万円)。近年は、聖ルカや真菜、花もの建物新築に伴う減価償却費増により、収支差額が激減しています。

当期活動増減差額は、約2,043万円。前年比で約115万円減少となりました。高齢者部門も、障害者部門も、資格要件などの加算をとらなければ、収益の確保が難しい状況になっています。

障害者部門では、「コスモス」が就労継続B型としての活動を終結、次年度からは、生活介護として新たな活動を始めます。

高齢者部門では、委託事業の介護予防拠点施設「コミュニティセンターぶどうの木」の業務を、2024年度末をもって終了し、啓発事業など一部の介護予防活動は聖ルカホームが行うこととなります。

詳しい内容は、各事業所にあります事業報告・決算報告書に記載されていますので、ご覧ください。

寄付金収支内訳

2024年度も多くの皆様よりご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

(単位:円)

収入内訳	一般会計	
	寄付金	
本部取扱い分	寄付金	8,902,480
	誌代 ※	0
	小計	8,902,480
事業所取扱い分		2,464,526
合計		11,367,006

支出内訳	
機関紙代	0
奨学金、旧施設解体等費用及び新規事業用として本部残高に繰入	8,902,480
寄付金受入れ事業所運営費用	2,464,526
合計	11,367,006

※2022年度からは「機関紙やまばと」の誌代はゼロ円となりました。

牧ノ原やまばと学園貸借対照表

(2025年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,182,464,793	流動負債	239,838,365
固定資産	3,387,962,547	固定負債	553,746,300
基本財産	2,033,044,232	負債の部合計	793,584,665
その他の固定資産	1,354,918,315	純資産の部	
		基本金	542,667,132
		国庫補助金等特別積立金	495,031,571
		その他の積立金	995,414,000
		次期繰越活動増減差額	1,743,729,972
		純資産の部合計	3,776,842,675
資産の部合計	4,570,427,340	負債及び純資産の部合計	4,570,427,340

助成に関して

助成金をいただき、以下のものを購入しました。感謝して報告いたします。

(単位:円)

助成団体名	事業所名	物品名	助成金
NHK 歳末たすけあい助成金(静岡県共同募金会)	養護老人ホーム相寿園	クリスマス会経費、新年会経費	159,000

牧ノ原やまばと学園資金収支計算書

(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	799,995,924
		老人福祉事業収入	109,528,605
		就労支援事業収入	49,652,629
		障害福祉サービス等事業収入	1,138,643,856
		医療事業収入	2,808,406
		その他の事業収入	7,326,647
		経常経費寄附金収入	11,367,006
		受取利息配当金収入	234,536
		その他の収入	10,391,424
		事業活動収入計(1)	2,129,949,033
	支出	人件費支出	1,406,343,464
		事業費支出	286,488,166
		事務費支出	213,552,531
		就労支援事業支出	51,185,212
利用者負担軽減額		1,747,183	
支払利息支出		3,763,378	
その他の支出		2,758,679	
事業活動支出計(2)		1,965,838,613	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		164,110,420	
施設整備等による収支その他の活動による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,604,000
		固定資産売却収入	120,000
		施設整備等収入計(4)	3,724,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	21,226,228
		固定資産取得支出	46,877,570
		固定資産除却・廃棄支出	69,820
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,615,070
		その他の施設整備等による支出	0
		施設整備等支出計(5)	71,788,688
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 68,064,688
収入	積立資産取崩収入	20,301,916	
	その他の活動収入計(7)	20,301,916	
支出	積立資産支出	69,521,607	
	その他の活動支出計(8)	69,521,607	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 49,219,691	
予備費支出(10)		0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		46,826,041	
前期末支払資金残高(12)		1,002,352,349	
当期末支払資金残高(11)+(12)		1,049,178,390	

牧ノ原やまばと学園事業活動計算書

(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	799,995,924
		老人福祉事業収益	109,528,605
		就労支援事業収益	49,652,629
		障害福祉サービス等事業収益	1,138,643,856
		医療事業収益	2,808,406
		その他の事業収益	7,326,647
		経常経費寄附金収益	11,367,006
		その他の収益	1,809,984
		サービス活動収益計(1)	2,121,133,057
		費用	人件費
	事業費		289,513,256
	事務費		213,696,926
	就労支援事業費用		51,484,615
	利用者負担軽減額		1,747,183
減価償却費	177,561,886		
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 53,569,065		
サービス活動費用計(2)	2,103,152,341		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		17,980,716	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	234,536
		その他のサービス活動外収益	8,581,440
	費用		
		サービス活動外収益計(4)	8,815,976
費用	支払利息	3,763,378	
	その他のサービス活動外費用	2,775,479	
	サービス活動外費用計(5)	6,538,857	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		2,277,119	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		20,257,835	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,604,000
		施設整備等寄附金収益	0
		固定資産受贈額	0
		固定資産売却益	119,999
		その他の特別収益	126,297
	特別収益計(8)	3,850,296	
	費用	固定資産売却損・処分損	69,852
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,604,000
		その他の特別損失	0
特別費用計(9)		3,673,852	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		176,444	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		20,434,279	
繰越活動増減差額の部	繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額(12)	1,763,195,693
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,783,629,972
	繰越活動増減差額	基本金取崩額(14)	0
		その他の積立金取崩額(15)	13,200,000
		その他の積立金積立額(16)	53,100,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		1,743,729,972	

歩みのあと

(5月1日〜6月30日)

●全体的なこと

5/9まで監事監査。5/16新
人職員研修。5/28事故防止
委員会。6/7新年度研修。テ
マ「私たちに求められている
こと」。基調講演は神戸聖隷福
祉事業団理事長の水野雄二様
「きょうだいようぶ」私のキ
リスト教社会福祉の基本」。ギ
ターを弾いて楽しい中にも示唆
に富んだお話し。6/13外
岡潤弁護士による日舞「藤娘」
や手品の披露。グレイス、真菜、
すずらん。午後は武田竜太郎
弁護士とともにハラスメント研
修。

●個別のニュース

〔法人〕5/24 2025年度第回
理事会。事業報告、決算など。5
28長澤理事長、牧之原市介
護保険事業計画等策定懇話会
へ。6/3評議員選任解任委員
会。6/14午前中は定時評議員
会。午後は第2回理事会。役員
選任。役員等報酬規程の変更。
2025年度の役員等は次のよ
うに選任されました。
アイウエオ順、敬称略

評議員(任期4年間)
池上千穂、出水厳生、太田雅子、
柴田敏、杉本正、外岡潤、田島
逸雄、早川ひろみ、山城厚生
★これを機に退任された渡辺
紀久子様に、心から感謝申し
上げます

理事(任期2年間)
姉崎弘、大石幸、佐々木炎、
長澤道子、平井章、松田正幸、
三浦賢世
★理事長として長澤道子が選
任されました

監事(任期2年間)
飯塚馨之、松浦隆雄

《垂穂寮》5/9、20、6/17、23
公園散策やカラオケ、アピタでの
買い物等へ。5/17やまばと学
園旧職員と交流。5名、宮崎道子
初代園長はじめ10名の旧職員
が来訪。6/4旧職員3名の来訪
6/13職員研修でセルフケア体
操。6/14静岡福祉大学木下
先生とゼミ生5名が来訪。利用
者との活動や職員と意見交換
6/28静岡福祉大学で福祉の
しごとセミナー(職員参加)

《野ばら》5/8動物ふれあい訪
問。5/23明治なるほどブライク
リール外出。6/9クッキング。中
華まん風作りとリッツのデコレ
ション。

《みぎわ》5/3夜間(19時〜)
避難訓練実施。5/25誕生日。
ケーキでお祝い。6/28水消火
器での消火訓練。

《やまばと希望寮》5/12、6/
6、163班に分かれサーカス鑑
賞。ご家族も4名参加。イリュ
ジョンに興奮。5/30利用者の
皆様のしあわせとは何か?を
考える職員研修。6/26運動会
借り物競争や玉入れ等。

《生活支援センター》6/7法人
の新年度研修に参加し、改め
て理念の振り返り。6/3、18
て生活支援センターつばさと合同
ケース検討会。

《わかば》《もくれん》5/6わか
ばもくれん合同でラーメンを作
り昼食を楽しむ。

《花もも》5/20吉田町多目的広
場へ、強い潮風を受けながら散
歩。6/27花もも運動会。ご家
族や真菜、希望寮の利用者&職
員を招待。

《かたくりの花》5/23、30藤田農
園のご好意でいちご狩り。口い
っぱいの満足度。6/23、27地域
の喫茶ルームへ。ジャズが流れる
中でのコーヒーに舌づつみ。

《マーガレット》5/8ケアセンタ
ー野はらの「動物ふれあい」に参加

5/13吉田公園へピクニック。6
10さつまいもとトマトの苗を
植付。6/24明治なるほどブライ
クリール外出。

《カサハラ力》6/1改正労働
安全衛生規則対応し、職場の熱
中症対策の強化。気温湿度注
意、水分補給等の実施等。

《コスモス》5/16改修工を終了。
6/27島田第一地区民児協
交流会。大井町公民館でポツチャ
を楽しむ。6/20スイーツを食
べよう?好きなドーナツを選
ぶ。6/7横井町クリン
作戦。5/23交通安全教室。6
20寄せ植え体験。日頃の感謝
に横井町公民館にもプレゼント。

《希望の家》5/12家族に感謝の
日、日頃の感謝を伝える。6/
19金谷体育館にてモルック大会。
熱い戦いを繰り広げた。

《ふれあい》5/12家族に感謝の
日、感謝の気持ちを。ご利用者が
伝えた。6/25総合防災訓練。
《あさがお》5/13体操教室。5
23買物訓練。近隣の店舗で
昼食を購入。6/10笑いヨガ。
26民生児童委員との交流会。
作業体験ゲームを行い、昼食に
サンドウィッチをいただきました。

《Wooやまばと》5/10矢崎地
域感謝祭で自主製食品販売。5/
30坂部小学校支援学級生徒の
作業体験受け入れ。6/25昼
食を自分で選び「お弁当どん
どん」で注文からあげ弁当が人
気。6/27保護者を開催

《さくら》5/15保護者を作業
参観。6/13ミニ運動会。玉入
れパン食い競争ダンス等。

《レタスクラブ》5/14海岸清掃。
6/12畑の土入れ野菜花の苗
の植え付け。夏野菜のシースンに
向けて畑で汗を流した。

《聖ルカホーム》5/1聖ルカ創立
記念日。6月コロナ感染あり。6
10福祉人材センター関係者が
聖々見学。6/23EPA生のセ

プティさん帰国。
《グレイス》5/7静波東光寺長
藤を観光。5/13じゃんけん体
操後、新茶と3種の和菓子を入
れた。6/6あじさい見物。6
16つばきユニット、静波海岸に
利用者様3名と外出。海の日差
しを満喫。6/18あさがおまつ
りでお好み焼きパーティー。6/
24第2回運営推進会議。

《相寿園》5/13相良港付近散策。
5/16ストラックアウト大会。5
20、6/17大場さんレク。5/
21、6/18笑いヨガ。5/30、6
13習字クラブ。6/4うおと
も招待会へ。13名。皆様のおもて
なしに感激。6/10誕生月外出
で牧之原市立図書館「いこう」
の喫茶へ。6/27お手玉ダーツ。
6月から日曜日の活動充実の一
環でDVD鑑賞会、多くの利用
者が参加。

《真菜》5/9夏野菜を植付。5
24梅シロップを仕込む。6/2
平井農園「ジャガイモ収穫のお
手伝い」。6/20第6回明治安田
「大人の塗り絵コンクール」に挑
戦。6/27花もも運動会に参加
28相良のいけそばへ誕生日外出
天婦羅そばを召し上がる。

《すずらん》5/3イチゴ大福つ
くり。完成を待つ間に味見をし
ている人もチラホラ。5/31梅
ジュースつくり。手慣れたもので
あつという間に作業終了。

《さくらん》5月末で登録パート1
名退職。職員補充が急務。車両
の入れ替えを検討中。

《シャローム》5/13、6/10主任
ケアマネ連絡会。5/15牧之原
市介護予防ケアプラン会議にて
助言。5/16災害BCP訓練で
安否確認が必要な方の訪問ルー
トや周辺環境を現地確認。5
19吉田牧之原ケアマネジャー
連絡会総会。

《オリーフ》5月、職員は2カ月に

寄付金	指定寄付金	合計
4~5月	18,968,581	0
6月	800,000	0
計	19,768,581	0
※ 2025年5月大口寄附(個人)あり		18,555,081円

度の1週間の「携帯電話当番」
深夜時間帯や土日だと緊急事
態かとドキドキ。6/19高齢者
虐待対応研修。介護に疲れ、追
い詰められ虐待に至るケースも
唐待をしている人もまた被害者
という現実を実感。

★活動者名(敬称略順不同)
個人 大石節子、鈴木久美子、鈴
木勝利、鈴木秋次、殿村隆夫、
田代和穂、内藤きせ、萩原潤、吉
永治子、三浦孝。

団体 やまばと希望寮保護者会
(草取り)、日赤奉仕団勝間田
地区(施設周辺の草取り)。
あとがき

☆長谷川信様は、創設期のやまば
と学園職員。有志のかたととも
に垂穂寮を訪問され、かつての
子ども達と再会されました。

☆表紙の写真は、ケアセンターかた
くりの花のご利用者。お祖母様
の畑で収穫した新茶が今年も
届き、新茶の会を開催「美味し
いね〜」と最高の笑顔でした。

☆トカラ列島の地震や都会の豪雨
危険な暑さなど異常な気象が
続いています。みなさまの「無事
をお祈りしております。」(一)